

高松中心市街地プロムナード化検討事業実行計画

かがわ DXLab DX による中心市街地プロムナード化 WG

内容

1	対象区域.....	3
2	区域の目標・課題.....	4
2.1	目指すビジョン.....	4
3	事業概要.....	6
3.1	令和6年度実証の概要	7
1	事業実施体制	8
2	スマートシティ実装に向けたロードマップ.....	9
3	持続可能な取組とするための方針	10

1 対象区域

本実行計画の対象は、香川県高松市（面積：約 375 k m²、人口：約 42 万人）のサンポート高松地区を含む高松中心市街地とする。



高松市の位置図

2 区域の目標・課題

2.1 目指すビジョン

香川県では、「高松広域都市計画区域マスタープラン」において、JR 高松駅を中心とした周辺エリアを「広域拠点」と位置付け、県立アリーナの整備も予定されるサンポート高松等の整備効果を周辺地区に波及させることのできる広域交流拠点にふさわしい都市空間の整備を目指している。

これに相応しい駅前空間の実現に向けて、令和 5 年 4 月に「高松中心市街地プロムナード化検討会議」を設置し、高松中心市街地において、より一層のにぎわいを創出するため、歩行空間の課題を抽出し、都市空間の再編に向けた検討を進めるとともに、「都市再生整備計画（サンポート高松地区）」に基づきハード整備を行っている。

サンポート高松地区における大型施設開業を契機に、駅前空間などの中心市街地に人が集まり、賑わいを創出することで、都市の魅力・暮らしの質の向上、交流人口の増加、防災機能の向上等とともに、企業の集積等を進めることで、圏域の活力を牽引し続ける都市を実現する。



計画名	策定状況	内容
香川県都市計画区域マスタープラン（高松広域都市計画区域マスタープラン）	策定済（令和3年5月策定）	JR 高松駅を中心とした周辺エリアを「広域拠点」と位置付け、県立アリーナの整備も予定されるサンポート高松等の整備効果を周辺地区に波及させることのできる広域交流拠点にふさわしい都市空間の整備を目指すとともに、多様な交通手段の有機的な組み合わせによる持続可能な交通体系の形成を目指す。
第7次高松市総合計画	策定済（令和6年度～令和13年度）	「持続可能なまちづくり」を基本方針とし、「機能性の高い都市空間の形成」や「交流・連携を支える都市交通の充実」を政策に掲げ、サンポートエリアを核とするシーフロントや中心市街地の魅力・回遊性の更なる向上、公共交通ネットワークの再構築等に取り組む。
高松市都市計画マスタープラン	策定済（平成29年8月改定）	将来都市構造として、「多核連携型コンパクト・エコシティ」を示し、既存の都市ストックを活用した、「鉄道・バス等の公共交通の機能充実」などにより、「集約型都市構造」へと転換していくことを目指す。
高松市地域公共交通計画	策定済（令和3年9月改定） ※令和6年6月改定予定	「いつまでも 人と環境にやさしく 快適で利用しやすい 公共交通体系の構築」を基本理念に掲げ、持続性の高い公共交通体系の再構築、中心市街地における回遊性の向上、中心部への自動車利用の抑制等を基本方針とし、需要に合わせた供給の最適化に取り組む。
高松市立地適正化計画	策定済（令和2年7月改定）	地域公共交通計画と立地適正化計画の連携によるコンパクト・プラス・ネットワークの考えの下、持続可能なまちづくりを進めることとし、まちづくりの方針として「公共交通を中心とした交通利便性の確保」、施策の方針として「公共交通ネットワークの再編」を定めている。
都市再生整備計画（サンポート高松地区）	策定済（令和4年3月策定）	サンポート高松地区において、JR 高松駅ビルや、県立アリーナ等の建設に合わせて、地区全体の魅力向上や交通結節機能の強化、回遊性向上を図ることで魅力的な地区づくりを実現する。

各種計画との関係

3 事業概要

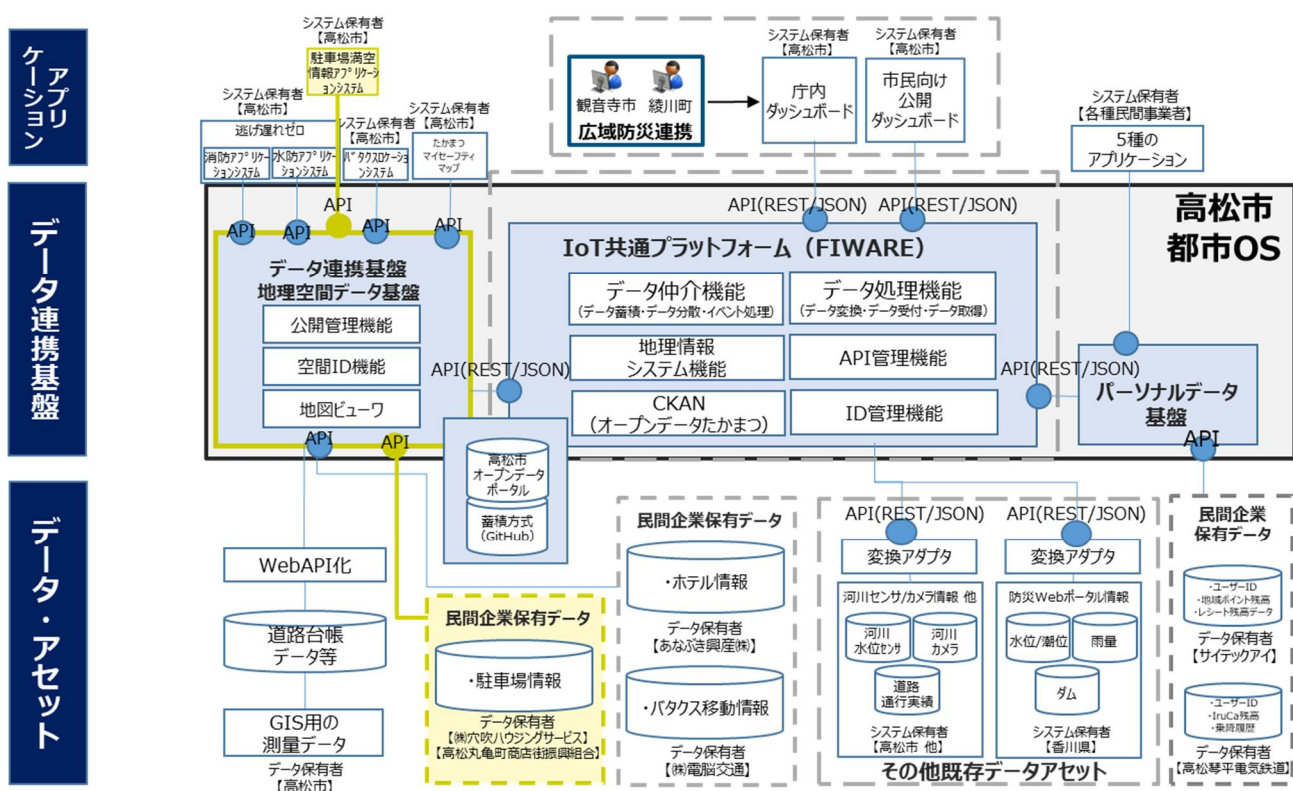
高松市において、R4 年度デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用し地理空間データ基盤を構築した。これは、自治体が保有する都市計画、道路、建物等のベース・レジストリ情報を搭載した、軽くて速い操作性と機械判読可能という特徴を持つ地図基盤である。

地理空間データ基盤は「地理空間データをベクトルタイル化」、「空間 ID の仕組みを採用」、「インフラ情報の安定供給が可能」という特徴を持つことから、サービスの構築コストが低い。

低コストでサービスを提供するためには、地理空間データ基盤と民間事業者とのデータ連携が必要だが、民間事業者においては行政と連携することに壁があることから、「データ連携による成功体験」の積み重ねが重要である。

民間事業者とともにサービスをビルドアップしていくことにより、地理空間データ基盤をハブとし、多様な情報・機能が集積される。

サンポート高松地区においては、大型イベント時の目的地周辺における交通渋滞が懸念されるが、「地理空間データ基盤」と民間データを連携させ、既存のリソースの最適化と、人の行動変容を促す都市経営上のマネジメントを可能にする仕組みを構築する。



アーキテクチャイメージ

3.1 令和6年度実証の概要

令和6年度においては、地理空間データ基盤を活用し、駐車場情報と連携した駐車場情報アプリを構築し、満空情報の可視化を実施するとともに、各駐車場における満空データのレポートを取得し、スマートシティサービスを導入するにあたってどのような利用者ニーズがあるのか、システム環境や他サービスとのシステム上の連携を検証する。

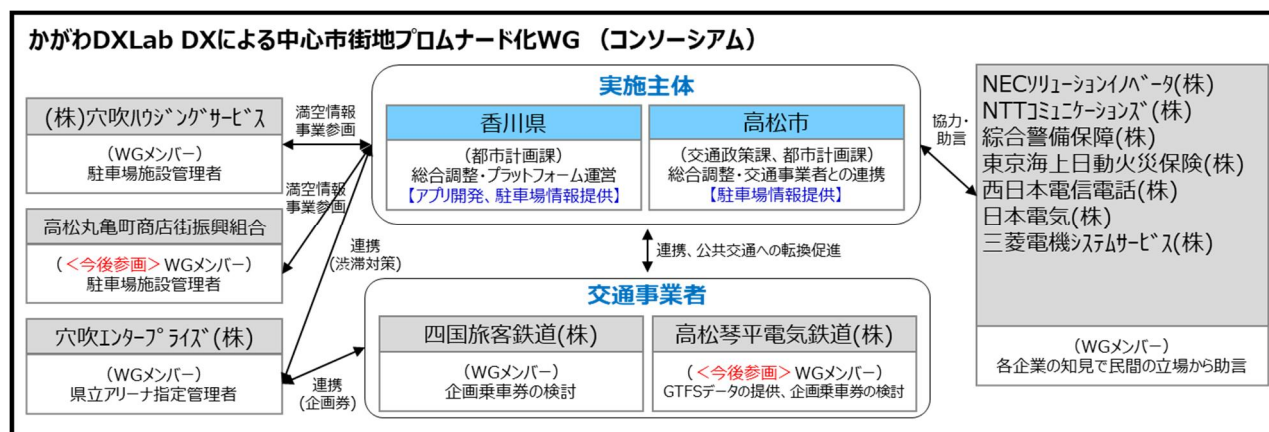
具体的には、構築した駐車場情報アプリにより駐車台数のログを取得し、データを一元化したエリア内における駐車場の利用状況を把握・分析することで、次のフェーズの機能拡充に展開可能か確認を行う。また、データ連携における事業者の満足度をアンケートやヒアリングで把握することで、今後のデータ連携へのつなげ方を確認する。



駐車場情報アプリ利用シーンイメージ

1 事業実施体制

事業実施体制は、かがわ DXLab DX による中心市街地プロムナード化 WG をコンソーシアムとし、事業を推進していく。



実行計画における実施体制

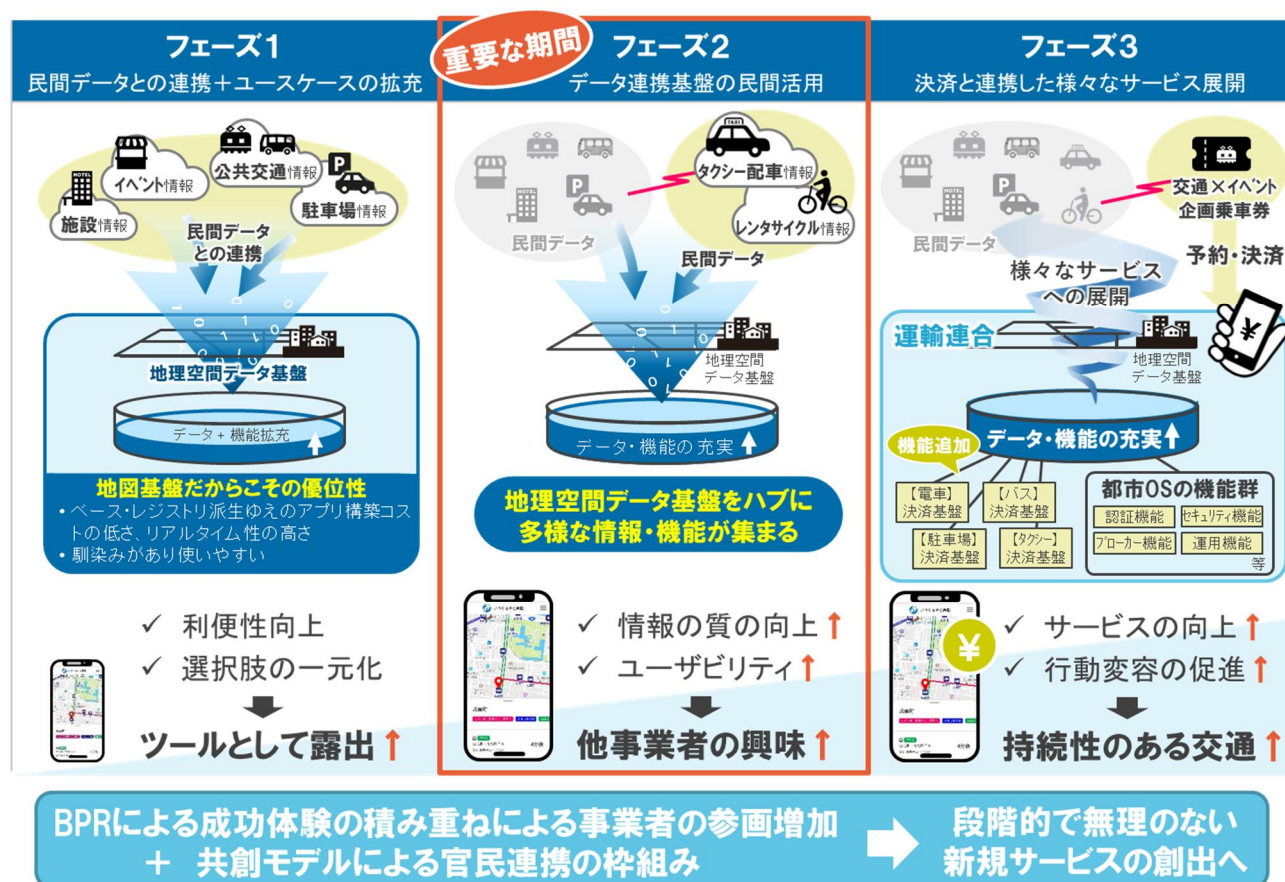
高松中心市街地プロムナード化検討事業については、令和 5 年 9 月以降、「かがわ DXLab DX による中心市街地プロムナード化 WG」において議論を深めてきた。

「かがわ DXLab」とは、香川県内を一つの生活圈として、デジタルによる地域課題解決を通じた【まちづくり】に取り組む官民共創のコミュニティである。官民がそれぞれの知見を生かし、フィールドワークを通じた課題の抽出から、事業者や住民との対話、実証から実装のサイクルの中で、県、市町、事業者が、地域課題の解決に向けて、共に提供サービスの質を高めることを目指している。

ワーキンググループは、フィールドワーク等による課題の深堀、効果的な解決策の検討等を行ったうえでサービス創出のための実証実験を行うことにより、その成果のサービス実装につなげていくことで、DX によるまちづくりの実現に取り組むもので、「DX による中心市街地プロムナード化 WG」は、中心市街地を居心地がよく歩きたくなる都市空間へ転換し、持続可能な都市の発展を実現することを目的としており、「公共交通」だけに特化しない協調・連携体制として、引き続き、この枠組みを活用して、解決策の計画、実行、検証等の PDCA サイクルを回していく。

2 スマートシティ実装に向けたロードマップ

駐車場の需給バランスの最適化に向けては、民間事業者の保有する駐車場データ取得とともに、アプリでの予約・決裁が必要だが、機能拡充を一気に行うのではなく、ビルドアップ型で行うことにより、データ連携による成功体験やノウハウ等が蓄積される。また、地理空間データ基盤をハブとし、同一プラットフォーム内に多様な情報・機能が集積されることで、段階的で無理のないサービスの創出へとつながることから、持続性の高いモデルが構築される。



段階的なスマートシティの展開

3 持続可能な取組とするための方針

サービスレイヤーから事業を実施すると、手段の目的化が起こり、本来の課題解決とは乖離したアプリケーションとなっていることが見受けられる。

特にモード毎、事業者毎に主体が分かれている体系においては、アプリケーションを導入してもサービスを統合できる領域は限定的であり、サービス全体のデザインは出来ないことから、実証止まりとなるケースが散見されている。

土台となる、ベース・レジストリ全体を俯瞰的に捉え、課題を共有しながらサービス全体をデザインし、モードや事業者を超えて合意できなければ、実証より先には進めないことから、持続可能な取組とするための組み立てにおいて手順は重要である。

本市では、フィジカル側のアーキテクチャの理解・整理とともに、ベース・レジストリにより地理空間データ基盤を構築していることから、多分野とつながりやすく付加価値がつけやすい。

また、各々の事業で費用対効果を確保しながら事業を進めており、持続性が高い基盤による事業に取り組むことができる。

市長マニフェストにおいても、地理空間データ基盤を有効に活用し、各種行政施策の高度化、サービスの効率化に結びつけていく方針となっており、全庁において地理空間データ基盤の活用を進めている。

